

◇しずおか就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム事業実施計画における目標及び令和2年度の実績・評価

支援対象	目標および目標値（3年間）	令和2年度における評価	事業計画に記載されているKPI	令和2年度におけるKPIの進捗状況	KPI進捗状況の評価結果
不安定な就労状態にある方	正規雇用を希望していながら不安定な就労状態にある方について、現状よりも良い処遇を目指すため、支援対象者の正規雇用者数を9,300人増やすことを目標とする。	令和2年4月から、ハローワーク静岡・浜松に「就職氷河期世代専門窓口」を設置、令和2年8月から、しずおかジョブステーションに「就職氷河期世代就職支援サポーター」を配置して対象者の支援に取り組んだが、コロナ禍の中、KPIの3分の1には届かなかったため、今後は専門窓口でのチーム支援を活用した取組を一層推進していく。 一方、キャリアアップ助成金に関するKPIは目標を大きく上回った。	①ハローワーク紹介による正社員就職件数：3年間で16,000件 ②キャリアアップ助成金活用による正社員転換数：3年間で6,000人 ③しずおかジョブステーションでの相談件数：3年間で9,100件	①正社員就職件数は4,920件、進捗率は30.8% ②正社員転換数は3,162人、進捗率は52.7% ③就職氷河期世代就職支援サポーター（令和2年8月から配置）が行った相談件数は2,441件、進捗率は26.8%	①については、専門窓口によるチーム支援の対象者が少ないことが進捗状況が低調な理由と考えられる。これを踏まえ、チーム支援による伴走型支援の取組を強化していく。 ②については、企業の同一労働同一賃金の導入によりコロナの影響もなく順調に推移している。 ③については、配置時期が令和2年8月となったため年度としては未達成であるが、件数としては順調に推移している。
長年にわたり無業の状態にある方	就業を希望しながら、様々な事情により求職活動をしていない長期無業の状態にある方については、働くことや社会参加を促す中で本人に合った形で支援を行う必要があることから、地域若者サポートステーションを中心に、関係機関と連携しながら職業的自立につなげることを目標とする。	令和2年度はミドル・チャレンジコーナー及び地域若者サポートステーションの一般的認知度の向上のため、委託事業を活用してYouTube動画作成・公開を行い周知を図った。 KPIに関しては、目標の3分の1に届いていないため、各関係機関の相談体制を充実させ支援対象者の確保及び自立促進に向けた支援の取組を強化していく。	①サポステへの新規登録件数：3年間で1,900件 ②サポステの支援により就労につながった件数：3年間で1,300件	①新規登録件数は520人、進捗率は27.4% ②就労につながった件数は343人、進捗率は26.4%	目標に向けた達成状況は、目標の3分の1に届いていない。 コロナ禍により、説明会・連絡会議・面接会・職場体験等が中止になり、その影響が大きいと思われる。 今後は、関係機関との連携やハローワークからサポステへの誘導を強化し、取組を推進する。
社会参加に向けた支援を必要とする方	支援対象者やその家族の実態やニーズに応じた、就労に限らない多様な社会参加に向けた支援を可能とするため、市町レベルのプラットフォームの設置等、支援体制の充実を図り、支援対象者と社会のつながりが生まれることを目標とする。	就職氷河期世代ひきこもり支援強化事業のほか、県ひきこもり支援センターによる地域連絡協議会の開催などにより、市町へ相談窓口設置に向けた働きかけを行った結果、KPIの目標を上回った。新型コロナウイルス感染症の影響により事業実施が難しい状況にあるが、引き続き市町のひきこもり相談支援体制の整備を進めていく。	①市町のひきこもり相談窓口設置数：33市町	①相談窓口設置数：14市町	静岡県内の政令市を除く市町のひきこもり相談窓口設置等に係る支援を目的として、就職氷河期世代ひきこもり支援強化事業を実施した。事業申請のあった市町に対しては、専門的見識を備えるアドバイザーを派遣し、相談支援体制の整備・強化を行った。令和2年度は新たに14市町でひきこもり相談窓口が設置され、令和3年度もさらに市町の相談体制整備の支援を推進する。